

経営管理

## 倒産予知的中率95%—OX情報の財務定量分析システム

### 企業財務分析の標準化ソフトの提供を目指す OX 情報

オックス情報株式会社  
(OX Information Co., Ltd.)

OX 情報株式会社は、1999年に設立された企業のリスク管理システム・ソフトの開発・提供企業で、OXのアラーム管理システムは、企業間取引におけるリスク管理、金融機関の与信、投資判断指標など、幅広い分野で利用されている。倒産予知手法のスタンダード・ソフトウェアを提供することで、その信頼性を証明している。



会長 伊藤 祥司氏

OX 情報が提供するアラーム管理システムは、独自の資金繰り分析手法により、破綻の危険を指摘する企業評価システムである。導入以来、94%という高精度の倒産解明率と問題点を指摘するコメントなどを打ち出し、対応策を講じやすい点で評価を得ている。このアラーム管理システムは、国内の銀行で、80%以上の導入実績(約300社)を持ち、さらに生命保険会社、リース会社など国内金融機関はもとより、海外においても、韓国内の金融機関約40社が採用している。今後は、米国版、中国版、東南アジア版などのニーズにも対応していく。

アラーム管理システムの特徴は、客観的な評価、粉飾を見破るロジックが含まれていること、問題点を指摘するコメントの表示、倒産解明率95.52%の実現、業種に応じた分析手法の構築などがある。

OX 情報は、Alarm シリーズを、アラーム管理システムを持つ分析エンジンに持つ、倒産予知ソフトウェアとして、銀行以外に、製造業、卸売業、小売業、倉庫業、海運業など13の業種に対応し、企業財務分析のスタンダードとして販売に取り組んでいる。

また、OXPen は、基本エンジンであるアラーム管理システムに、2つの指標を加

味した高精度の格付け情報を提供するサービス。収益力を評価軸に持つ2つの分析指標を加えた。収益と信用度を同時に評価する短期的な分析指標と、資産係数である。資産係数とは、収益の維持能力について5年以上の長期的な観点から分析し、売上規模に対して、無用の資産が大きい企業ほど収益力が低下するという関係から評価するというものである。

オプションとして、データインポートプログラム、汎用検索プログラム、業種平均値インポートプログラム、Alarm分析支援システムなどをそろえている。OX情報の詳しい概要は、ホームページ（[www.ox-info.com](http://www.ox-info.com)）からも入手ができる。

リスク管理システム、Alarmシリーズによる経営戦略を提案するOX情報

OX情報は、高精度の財務分析に基づいた「アラーム管理システム」を幅広いニーズに向けて提供している。日本の銀行の80%以上が導入するなど実績をあげている。OX情報のソフトウェア「アラーム管理システム」は、独自の資金繰り分析手法により、破綻の危険を指摘する企業評価システムである。OX情報では、各国の会計制度に適合した、各国版のアラーム管理システムを開発し、海外での普及に注力している。中国の会計制度に適合したアラームシステム—中国版（略称「AMS」）も今年完成した。

OX情報の伊藤祥司会長は、このアラーム管理システムの必要性について、主催は全国整頓和規範市場経済秩序領導小組弁公室、共催は中華人民共和國商務部国際貿易経済合作研究院によって北京で「信用経済とリスク管理の重要性」と題して、昨年末講演を行なっており、以下にスピーチの内容（要約）を紹介する。

信用経済とリスク管理の重要性

オックス情報株式会社  
会長 伊藤 祥司

信用経済の普及は経済発展の基本

「信用」とは何ですか。信用とは「支払い能力」のことです。この「支払い能

力」の用語には異なった二つの意味があります。一つは、現在背負っている債務に対して現在保有している資産を担保として「何時でも支払う能力を有している」という意味。二つめは、現在は担保すべき資産はないが現在から将来に亘って収益力を有しているので、現在の債務に対し「将来時点では十分に支払い能力を持っている」という意味の二つである。

貨幣を媒体とする貨幣経済では支払手段としての貨幣を持つ需要者と商品を持つ供給者との間で1：1の取引となり、この貨幣を受け取った供給者が次に需要者となって貨幣を使用するまで経済は拡大しない。これに対し、信用経済では取引は貨幣の代わりに信用が媒体となることができるので、「支払い能力」という信用に裏付けされた人々の集まる市場では、経済は極限まで拡大することが出来る。ここでの取引回数が多ければ多いほど「利潤」は累積し、社会全体の「所得」が増加することとなり、経済成長と雇用が促進されるようになります。従って、信用経済の普及は国民経済の充実した拡大にとって基本であります。

#### 資本主義経済の問題点

しかし、資本主義経済はいつもいいことばかりではありません。利潤追求の姿勢が強すぎるあまり、ともすると①「行き過ぎる」という欠陥と②各産業及び各企業が均質に発展しない、という二つの欠陥を常に内包しております。「行き過ぎた経済拡大」に対してはいずれ縮小均衡への努力が必要になります。

各産業、及び各企業が均質に発展しないということは、何時の時代にも体力的に弱い企業が存在するという事です。体力的に弱い企業ということは、信用力が低い企業、すなわち支払い能力が低い企業ということです。信用経済が普及し、信用取引という名のもとに取引相手先が多くなればなるほど、ある企業の破綻の影響はより大きくあらわれ、連鎖的に周辺企業を破綻に巻き込んでしまいます。破綻する企業が増加する傾向がみられると、銀行は融資規模を制限するようになり、国内の投資家の投資が海外に逃避したり、海外からの投資は入ってこなくなり、経済全体として停滞し失業が増加する要因になります。

#### 3. リスク管理の重要性

このような信用取引の連鎖的破綻から自分を守るためには、多くの企業が取引に際しての「与信管理」の徹底が必要です。「与信管理」とは取引先に「支払能

力」があるか否かを見極めることであります。その見極めが十分にできず不安があるときは、取引によって債権が不良化した場合でも、それによる損害を自分の体力の範囲内に抑え込むことが出来るように「取引限度額」を取引相手先別に決めることも重要であります。

以上を要約すれば、「リスク管理」とは取引先の「支払能力」を見極めること（定量分析、定性分析）、取引先をある特定の一社に集中せず、リスクを小口に分散することです。すなわち、

売掛期間をできるだけ短縮すること

契約時に一部現金受取の併用や前受金等の併用によって、取引先に対する債権額をできるだけ小さくしておくこと

自己資本、貸倒引当金など、自分側の財務体質を向上させておくこと

等が主な対処策ですが、一番大切なことは、①の売掛期間を短縮することが最も効果が大きいと思います。

以上のように、リスク管理は緊急の課題といえる。日本においては、あらゆる企業が淘汰の激流にもまれており、リスク管理に対する認識が高まっている。すなわち、取引先のリスク管理を高い精度で行い、未然に対策を講じ、リスクを確実に回避することが必要不可欠となっている。

リスク管理において最も重要な課題は、第一に倒産予知を高い精度で行なうこと。第二は、リスクミニマムのためのポートフォリオ管理である。このポートフォリオ管理が成り立つためには、精度の高い倒産予知システムが不可欠であるといえる。従来の与信診断手法は、収益性に重点をおいた業績評価主義であり、「粉飾」を発見する技術を有していなかった。特にリスク管理の先進国、欧米型の判別関数式は、「粉飾」に対して無力である。これに対して、OX情報のアラーム管理システムの「粉飾係数」や、「支払い余力度」の分析指標が、この問題を解決する。

格付けなど、リスク管理のための情報のニーズは、年々高まっており、ニーズに対応するリスク管理のツールが求められている。しかし、ワールドワイドに展開する従来の格付け機関のように、分析に長時間を要する格付けは、加速する市場の動きにリアルタイムに対応することが不可能である。また、株式・債券市場における機関投資家や個人投資家は、投資の判断指標として、タイムリ

一な格付け情報を求めている。このため、高精度の財務分析に基づく「アラーム管理システム」は、幅広いニーズに対応が可能であることから、優れた資金繰り分析、高精度な倒産予測、安心の導入実績などがユーザーから高く評価され始めている。